

(別紙2)

令和2年度学業報告(実績)

(令和3年3月現在)

奨学金支給者	今年度における研究活動等
マック インシャン イサ (34回生)	生物の生長に欠かせないステロールの中で、細胞膜を形成し、ホルモンの原料としてヒトの体内で大きな役割を果たすコレステロールについて、コオロギという雑食性昆虫がどのようにコレステロールを代謝しているのかを実験し、調査研究をした。
チョウ ホウ (34回生)	第5世代(5G)移動体通信の高速な通信を実現し、急増する移動通信のトラヒック(通信量)に対処するために必須である広い周波数幅の確保のため、小型で高性能なマイクロ波及びミリ波の広帯域通過フィルタ(BPF)について研究を行った。
アー イェンシュエン アンドレア (34回生)	ニット制作では、ストレッチスーツのセミフォーマルセットアップを、皮制作では機能性の高いスエードのブルズンを、制作。卒業コレクションでは、テーマを決めて、デザイン作りから、仕上げまですべてに勉強してきたことを生かした服を制作した。
シュウ コウ (34回生)	日中両言語における重なり分類、作用及び異同を提示し、それを理解した上で、中国人学習者が日本人母語話者とスムーズなコミュニケーションを取るにはどうすればいいのか、また、中国人学習者が話の中にどのように参加するのかを明らかにするために研究を進めた。
リー ジア ユン ライアン (34回生)	ロボットなどに細かな動作をさせるためのリモコン操作に、スキルを必要とせず、指を動かすことで作動するロボットの研究を行い、脳波で動かせるロボットハンドの制作を目指した。
リー タリン (35回生)	メダカを用いたガンマ線被ばくにおける全身応答の研究をおこない、放射線被ばくによって全身レベルで引き起こされる炎症反応を遺伝子レベルで解析。放射線に対する感受性が高いとされている臓器のうち、精巣でシングルセルRNA-seq解析を行い、精巣卵の発生メカニズムを解析した。
オウ カロ (35回生)	日本語上級レベルに至った技能実習生の学習継続の要因を明らかにすることを目的として分析を行い、技能実習生の日本語学習を義務的なものから自発的な学習に転換するために日本人との親交や交流を図ることの重要性を検証した。
リン チアリン (35回生)	幅広い授業を受け、各分野の知識を得て、未来の研究の基礎を固めた。また、日本語を精進するために漢字と敬語の授業を受けた。微生物ゲノムについて研究を継続したい。
シン イ (35回生)	日本茶の、茶葉の品質と密接に関係する茶葉表面の微細構造に対する機械製茶の、各工程での操作条件が及ぼす影響を実験、検討した。
チャム リー イー (35回生)	フォーマルウェア演習、クチュール演習と歴史服の複製にとり組み、卒業研究ではマレーシアの民族衣装からのデザイン

	を提案し、マレーシアの三つの民族衣装の特徴を取り入れドレスを制作した。また、学科のファッションショーをYouTubeに公開した。
トカルハドラマ テムレン (35回生)	動画像の解析による交通量調査の自動化について、撮影機器や撮影場所などの制約を解決するため、市販の安価なWebカメラを三脚に取り付けて、歩道から撮影した動画像を画像解析することで交通量調査を行う手法を検証した。
田中 美帆 (35回生)	前期試験で、身体の記号学と現代美術史を受験。身体の記号学では、人の表情や体などを元にしてテーマを決めて発表。親友のプレゼンテーションボードを制作した。